

◆特集◆ 秋田から2人目の総理大臣を目指そう

二ツ井の未来を語る会

12月1日（火曜日）、二ツ井中学校で「秋田から2人目の総理大臣を目指そう」と題して、全校生徒参加の集いが開催されました。

この企画は、総合的な学習の時間のふるさとキャリア教育において、二ツ井地区在住の市議会議員4名を招請して行われたため、その様子を取材してきました。

生徒たちからの絶えない質問

議員が自己紹介、能代市議会のあらましについて説明をした後、生徒10名から次の質問がありました。



- ・市議会議員になろうと思ったきっかけは
- ・議員になって大変なことは
- ・能代火力発電所の在り方は
- ・議員同士の意見が合わないときの対応は
- ・二ツ井地区の産業はどうあるべきか
- ・条例はどんなときにつくられるのか
- ・議員になる人はどんな人が適正か
- ・何党に所属しているか
- ・リーダーとしての心構えは

・脱炭素社会を目指し、風力発電はどう活用されていくか

・臨時議会はどんなときに開会しているのか

・人口が減り続けている能代は、どんな対策が必要か

・新型コロナ対策として、リモート会議を行う考えは



会が始まるまでは、「果たして何人が質問するのか不安です。もし質問者がいない場合は自由討論にしましょうか。」と話していた先生たちの不安は一掃されるほど、質問は絶えず、時間いっぱいまで相次いでいました。

出席した議員たちは、多岐にわたる質問・意見に、誰もがそれぞれ丁寧な説明、回答を心がけていました。

議会の一般質問で議員が取り上げるような内容の質問も数多く見られ、議員たちも、現在能代市が取り組んでいる政策を紹介していました。

また、条例についての質問に対しては、現在能代市議会では議会基本条例の策定に取り組み、議員自ら学んでいることもあり、分かりやすく説明していました。

「能代市で暮らしたい」

集いが終わった後、校長先生から「今日は大変有意義な企画ができた。生徒たちがこれほど関心を持っているとは。議員とこんなに身近に語り合うことはありがたい。」との感想がありました。

また、生徒会長と副会長に対し、将来はどこで暮らしたいか質問したところ、異口同音に「能代市で暮らしたい」と話していたことには、いささかの驚きと大きな喜びを覚えました。



行く行くはこの能代から

現在の中学生は、3〜5年後には選挙権を持ちます。少しでも政治に興味を持ち、選挙で一票を投じること、よりよいまちづくりを目指してもらいたいと感じました。

そして、生徒の中から、市議会議員、市長、県議会議員、県知事、国会議員を目指し、行く行くは「秋田から2人目の総理大臣を」とこの能代から、と願う次第でした。

取材：伊藤洋文 安井和則